

第5期麻生区区民会議 第1回企画部会 議事要旨

1 開催日時：平成26年10月10日（金）午前10時00分～午後0時10分

2 開催場所：麻生区役所第1会議室

3 出席者：[委員]

石川委員、植木委員、岡倉委員、小尾委員、梶委員、金光委員、白井委員、
菅野委員、高倉委員、高橋(克)委員、高橋(慶)委員、林委員、宮本委員、
山田委員、吉垣委員

(欠席) 石井(郁)委員、石井(よ)委員、上野委員、志村委員、横田委員
[事務局]

鈴木課長、蛭川課長補佐、白石担当係長、藤江、麻生、佐藤

[総合企画局企画調整課]

佐藤担当係長

4 傍聴者 なし

5 議 事

(1) 新たなる総合計画の策定方針について

【説明事項】

- ・総合企画局より、新たなる総合計画の策定方針について説明。

(2) 第5期区民会議の調査審議課題について

ア 第1回全体会議で出された意見の確認及びワークショップの進め方について

【説明事項】

- ・事務局より、第1回全体会議で出された意見の整理及びワークショップの進め方について説明。

【決定事項】

- ・整理内容に基づき、(仮称)若い世代が住みやすいまちづくり、(仮称)市民活動・地域活動の活性化の2つの分類に分け意見交換を行う。

(主な意見)

- ・それぞれのテーマ全てに意味があるので、捨てるのではなく、他の機関でやるべきだとか、そういう判断をした結果、区民会議でもう少し掘り下げた方がいいというものについてはやっていくという形にして、5～6の大項目に対して結論をだしていかないといけないのではないかと。
- ・検討していく段階において果たして今までの区民会議において漏れがあったのかないのか、その辺のところも過去の資料を細かく精査して、さらにこういった視点が必要ということであれば、検討して進めていけばいいのではないかと。また、福祉の問題を扱っている部署もあ

り26年度の福祉計画があるので、そちらに任せてしまうということであればそれでもいいのではないかと。

- ・麻生区を豊かなまちにしていくにはどういったことをすればいいのか。どういった問題をテーマにいくのか、グループの中で検討してほしい。

イ 各グループでの意見交換について

ワークショップ（ワールドカフェ方式）により、4つのグループ（A-1・A-2→若い世代が住みやすいまちづくり、B-1・B-2→市民活動・地域活動の活性化）に分かれ、席替えを行いながらそれぞれのテーマについて意見交換を行った。各グループの詳細は別紙を参照。

ウ 各グループでの意見交換の内容を発表

[A-1]（仮称）若い世代が住みやすいまちづくり

- ・子育てフェスタをもう一度とあるが、内容をさらにどういった形で発展できるか。
- ・社会全体が協力しあい、若い世代（小中高生、社会に出た若者）がもっと住みやすいまちづくりとして、元気よく活動でき、交流できるような公園とか広い遊び場などが必要ではないか。
- ・地域のイベントをもっと活発にし、子どもたちを呼び込めないか。
- ・家庭を中心に、社会が子どもたちに目を向け、子どもと大人と一緒に社会に入っていくような活動ができないか。
- ・社会の活性化ということで、中心となる活動の担い手（第4期は父親、母親、乳幼児）の世代の枠を広げ、児童、18才未満の子ども全体が活力を持って、社会で周りの理解・共感を得られるようにしたらどうか。
- ・駅周辺のまちのあり方として、環境の問題、都市づくり、整備の問題がある。
- ・子どもたちの活動を活発にし、横の連携をとって広げていくことが必要。

[A-2]（仮称）若い世代が住みやすいまちづくり

- ・若者にとって魅力的なまちづくりが重要である。
- ・子育てしやすい環境が必要である。具体的には、子どもを支援する仕組みづくり、地域全体でサポート、バックアップしていく体制や幼児教育専門の機関を誘致するといったようなことをやってみてはどうか。
- ・母親にとって子育てしやすい環境とは、子育て環境の充実、共働き、女性の社会進出のしやすい社会について検討する必要がある。具体的には母親が子どもを任せられる信頼できる施設や人材育成、そういった部分が必要であり、子どもの居場所づくりが大切。また、親子で参加できる場をつくるのも必要である。それに関連し、たくさんのイベントがあるが、しっかりと情報発信されているか、また情報を集約する必要がある。
- ・インフラの整備として、地下鉄3号線延伸や新百合ヶ丘周辺のまちの公共施設の配置、商業施設の配置についてももう一度見直し、将来的に発展できるような見直しができないか。
- ・検討の指標そのものについて、若い世代が住みやすいまちなのであれば、若い人（中学生、子育て世代）の意見を聞いたほうがいい。

[B-1] (仮称) 市民活動・地域活動の活性化

- ・子どもを地域活性のきっかけにしたい場合、居場所づくりが大事となる。また、それには行政の協力が必要であり、子育ての居場所づくりのためには地域の担い手を育てる必要がある。そこでシニア層に地域活性化の担い手になってもらう仕組みづくりが重要である。
- ・シニアだけでは考え方が固まってしまう可能性もあるので、地域の若者にも参加してもらい、他世代で担い手になってもらうのが重要である。また、シニア層というのは経験をつんでいるので、そういった経験を活かし、地域活性化を若者と一緒に進めることができる。具体的にはイベントを通じて団体交流ができるような場をもち、地域の居場所に情報を落としていき、担い手を広げる仕組み作りが必要。
- ・自治会・町内会が活発なことから、互助の仕組みを作り、地域の人たち、他世代を巻き込んだ仕組み、そういうモデルづくりをしたらどうか。

[B-2] (仮称) 市民活動・地域活動の活性化

- ・自治会・町会が活性化すると、地域活動がもっと豊かになる。家の周りの人々との繋がりづくりとして、井戸端会議的な場をつくり、地域活動の活性に繋がられないか。特に防災のときの共助も人と人とのつながりが必要である。
- ・地域活動を活発にするには場所を作る必要がある（シニアが集まりやすい場所、中学生なら地域に参加しやすい場所、子育ての人が集まりやすい場所。）。それは空間であったり、役所であったり、商業施設であったり、散歩の途中に憩いの場など、人が集まれる場所。
- ・農業、地域資源・環境の仕組みを広く知らせることや、また参加する人を増やすとか、農のあるまちづくり、農業が盛んな地域で、資源を生かすことで地域活動が活発になっていくのではないか。
- ・情報発信の仕組みづくりが重要。行政が発信している情報やチラシを作るにしても、作成した課以外はその情報を知らないというのは問題ではないか。他の地域で活動している団体についても、隣のグループが何をやっているのかわからない。行政が情報発信するには、麻生区としてどう情報発信をしていくのかという点が、最初の課題ではないか。

エ 課題の分類について

【説明事項】

- ・事務局から、発表内容のまとめを説明。

【決定事項】

- ・(仮称)若い世代が住みやすいまちづくり、(仮称)市民活動・地域活動の活性化の2部会を設置する。
- ・事務局から第2回全体会議前に、本日のまとめを送付し、どちらの部会に所属したいかの照会を行う。

(3) 第2回全体会議について

【説明事項】

- ・第2回全体会議で正式に部会を設置することとなる。

(4) 平成26年度区民会議交流会の開催について

【説明事項】

- ・事務局から平成26年度区民会議交流会の開催について説明。

以上